

第22回SGRAカフェ

「逆境を超えて： パレスチナの文化的アイデンティティ」

2024年10月5日(土) 11:00~12:30(その後懇親会)

渥美国際交流財団ホールおよびオンライン (Zoomウェビナー) の
ハイブリット開催、参加無料

参加には事前登録が必要です。

(最後の「参加にあたってのお知らせ」をご参照ください)

【趣 旨】

第20回SGRAカフェ「パレスチナについて知ろうー歴史、メディア、現在の問題を理解するために」(2024年2月3日、渥美財団ホール)と第73回SGRAフォーラム「パレスチナの壁:『わたし』との関係は？」(6月25日、昭和女子大学)に続き、「パレスチナを知ろう」シリーズの締めくくりとして、今年最後のSGRAイベントを開催します。これまでは国際政治やパレスチナ問題の現状に焦点を当ててきたことを踏まえ、今回は文化、文学、芸術にスポットライトを当てます。

パレスチナに関するニュースは戦争や紛争に偏りがちですが、パレスチナ人には逆境の中で形成された独自で多様な文化的アイデンティティがあります。パレスチナの文学や芸術は民族が国家を奪われ、自決権を認められず、土地や文化の喪失を経験してきた中で、「故郷」をどのように捉えているかを映し出しています。

パレスチナの芸術や文学がいかにして平和的な抵抗の手段となり、抑圧や占領に対抗する一つの形となっているのかについても探求します。メディアでは語られることのないパレスチナの別の側面をご紹介します、このシリーズがポジティブな視点で終わることを目指します。

【講師からのメッセージ】

2023年10月7日にガザ地区からイスラエル領内への奇襲が行われたことへの報復として、パレスチナ人へのジェノサイドが開始されてからもうすぐ1年になります。しかし、イスラエルによる攻撃はパレスチナ人の生命・財産に対するものにとどまりません。19世紀末に始まるユダヤ人のパレスチナへの組織的入植の目的は、ユダヤ人国家イスラエルを建設してパレスチナのアラブ人を追放するだけでなく、その存在の歴史的記憶を抹消することにもありました。そのためパレスチナ人の闘争は、自分たちの生命・財産を守り、正当な権利を回復するための政治的・軍事的・経済的・法的な闘いだけでなく、歴史と記憶をめぐる闘いでもあり、その点において文化はきわめて重要な役割を果たしてきたのです。本イベントでは、パレスチナ人が文化を通じて自分たちの歴史的存在とその人間的価値を証明してきた歩みをご紹介します。

【プログラム】

- 11:00 開会挨拶
- 11:05 山本先生による講演
- 12:05 質疑応答・ディスカッション
- 12:30 閉会

【登壇者紹介】



講師: 山本薫 **Kaoru Yamamoto**

慶應義塾大学総合政策学部准教授。東京外国語大学博士(文学)。専門はアラブ文学。パレスチナをはじめとするアラブの文学・映画・音楽などの研究・紹介を行う。近刊に「パレスチナ・ガザに響くラップ」島村一平編著『辺境のラッパーたち—立ち上がる「声の民族誌」』青土社、アダニーヤ・シブリー『とるに足りない細部』(翻訳)河出書房新社。



討論者・司会: シェッターディ アキル **Cheddadi, Mohammed Aqil**

モロッコ出身。モロッコ国立建築学校卒業。慶應義塾大学政策・メディア研究科環境デザイン・ガバナンス専攻修士号取得・博士課程所定単位取得退学。同大学総合政策学部訪問講師。2022年度渥美奨学生。本カフェでは日本在住のアラブ人という視点からパレスチナ問題の現状や解決の可能性について考える。



オンラインQ&A担当: 銭海英 セン・カイエイ **Qian Haiying**

中国出身。東華理工大学外法学部を卒業し、明治大学大学院教養デザイン研究科で修士号を取得、現在は博士後期課程に在籍中。成城大学文芸学部および神奈川大学外国語学部で非常勤講師を務める。2022年度渥美奨学生。専門は近代中国教育思想史。現在、第2750地区ロータリー米山学友会の会長エレクトとしても活動中。

【参加にあたってのお知らせ】

- 参加には事前登録が必要です。

QRコードまたはURLからお申込みください。

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_SsqWHHpAQOqxQnvEiOVYAw



- 会場へのアクセス

渥美国際交流財団ホール

〒112-0014 東京都文京区関口 3-5-8

こちらをご覧ください。

<https://www.aisf.or.jp/jp/map.php>

- お問い合わせ

SGRA 事務局: sgra@aisf.or.jp / Tel: 03-3943-7612